

モモ「日川白鳳」の根域制限栽培における硬核期及び成熟期の土壌水分管理法

[要約] モモの根域制限栽培では、硬核期の期間中は乾燥させないように十分灌水を行い、土壌pF値で2.5以下に保つ。成熟期は収穫予定の15日程度前から灌水を控え、乾燥させるとよい。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成6年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

モモの根域制限栽培は早期成園化と品質の向上を目的とした新しい技術であるが、始められて間もないため栽培管理面で不明な点が多い。そこで本栽培法における硬核期と成熟期の適切な水分管理法について検討した。

[成果の内容・特徴]

- ①硬核期（満開35日後～66日後）の期間中は乾燥させないように灌水は十分に行うのがよく、灌水間隔は3日に1回程度がよい。土壌pF値は2.5以下に保つように管理する。
- ②硬核期以降は乾燥させた方が糖度は高くなるものの果実が小さくなるため、極端な乾燥処理は逆効果である。糖度12度程度の果実を生産するためには収穫予定の15日程度前から灌水を控え、乾燥させるとよい。

[成果の活用面・留意点]

- ①乾燥の程度は土壌の量や天候によって異なるので土壌水分計を設置して灌水の目安とする。
- ②収穫前の極端な乾燥処理は渋果の発生を助長するので行わない。

[具体的データ]

表1 硬核期の水分管理と果実重及び果実品質

処 理	pF上限値	灌水回数	果実重 (g)	糖度	p H
少灌水	2.8	3	123.5b <sup>z</sup>	9.9a	4.70a
中灌水	2.5	10	150.0a	10.4a	4.74a
多灌水	2.1	12	149.6a	9.6a	4.69a

<sup>z</sup> 縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

<sup>y</sup> 収穫12日前より乾燥処理を実施

表2 収穫前の乾燥処理期間と果実重及び果実品質

処 理	果実重 (g)	着色度 <sup>z</sup>	糖 度	p H
30日間乾燥	68.3c <sup>y</sup>	4.8b	19.3a	4.77a
20日間乾燥	103.9b	5.0b	13.2b	4.69ab
10日間乾燥	165.3a	5.4a	9.8c	4.57c
対 照	174.7a	5.6a	9.2c	4.62bc

<sup>z</sup> 着色度 全面着色を10としてその割合で算出

<sup>y</sup> 縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

[その他]

研究課題名：特定果樹の栽培に関する試験

予算区分：県単

研究期間：平成6年度（昭和58年～）

研究担当者：林田誠剛，森田 昭

既発表論文等：平成6年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：樹勢と灌水程度との関係を解明する必要がある。